

## 鳥木弥生 (メゾ・ソプラノ) インタビュー

聞き手&文章： 井内美香

10月に香港で『蝶々夫人』スズキを歌って帰国したばかり、隔離期間中の鳥木弥生さんにZoomインタビューをしました。今月19日(金)には横浜のかなつくホールで、彼女自身の初めてのリサイタルが控えています。

Q: 香港の『蝶々夫人』はいかがでしたか？イタリア・オペラのエキスパートであるイヴ・アベルの指揮で、国際的なキャストが出演していたようですね？

A: そうなんです。香港を代表するオペラ・カンパニーで、私は11か12の国から集まったキャストに囲まれて唯一の日本人でした。イタリアのエージェントからの連絡でオファーがあった仕事です。5公演、隔離期間を含め1ヶ月強の滞在でした。とにかく指揮のアベルさんが素晴らしく、カンパニーも活気があって良かったです。演出家はイタリア人ですが、日本文化へのリスペクトもしっかりある舞台に仕上がっていました。

Q: 今月19日に予定されている演奏会は、初めてのご自身のリサイタルだと伺いました。鳥木さんはコンサート出演も多いので、初リサイタルとは驚きです。どのようなきっかけで決まったのでしょうか？内容についても教えてください。

A: ここ2年くらいでしょうか、そろそろリサイタルをやってもいいかなと思



い始めていたのですが、ちょうどそこにオフィス諷雅さんにお声がけいただいたのがきっかけです。内容についてまず考えたのは、得意なものを歌った方がお客様もきっと楽しいだろうな、ということです。私も人のリサイタルにはよく行きますが、その時にそう感じることが多いので。自分が得意で、自信を持って素敵だと思える曲を選んでも、メゾ・ソプラノの場合はそんなに聴き飽きた曲ばかりにはならないと思いますし。そして私は歌曲よりアリアの方が聴いていて楽しいので、アリアを中心にという風に考えました。

Q: 今回のプログラムは、有名な曲の合間に、珍しい曲がいくつか入っていますね。でも、それぞれとても良い曲で、しかも鳥木さんのキャリアに深い関わりがある曲が多い。演目は前半がイタリアのオペラ・アリア、後半がフランス・オペラを中心に構成されています。まず一曲目はロッシーニの『アルジェのイタリア女』より「酷い運命よ」。名アリアですし、イザベッラは凛とした美女で場を仕切っていく力があるところなど、鳥木さんによく似合う役だと思えます。

A: このアリアはキャリアの初めの頃から歌っています。私が生まれて初めてお金をいただいたコンサートは、師匠であるエレナ・オブラスツォワとのデュオ・コンサートがベルグラードで開催されたものでしたが、そこで歌っている途中で歌詞を忘れて立ち往生してしまった忘れられない曲でもあります。今度は大丈夫だと思いますが、また間違えたらごめんなさい。いえ、もちろん大丈夫です(笑)。このアリアは、登場して自分の心情を歌うもので、男性を手玉に取るような所もあるので、私の中ではベルカント時代のカルメンのように思っている曲です。ロッシーニは装飾歌唱などを歌うのがだんだん面倒くさくなってくるんですけど、でもずっと歌いたいと思っている曲です。

Q: 二曲目はゲストの小林厚子さんとのモーツァルト『フィガロの結婚』から「手紙の二重唱」です。小林さんとは共演が多いですか？

A: はい。もう一人のソプラノ歌手 佐藤亜希子さん、そしてピアニストの藤原藍子さんと、〈4FIORI〜クアットロフィオーリ(4輪の花)〉というユニットで



活動する仲良しです。日本ではドラマチックな声と思われている小林さんの歌うモーツァルトを聴いて頂きたいな、という思いに加えて、メゾ・ソプラノの可能性を広げる意味も持たせて、彼女が伯爵夫人、私がスザンナを歌います。

Q: 次に歌われる『ラ・ボエーム』はプッチーニではなくてレオンカヴァッロ作曲です。ムゼッタの「これは運命！」はドラマチックな素晴らしい曲ですね。プッチーニに比べて上演は稀ですが、鳥木さんはこのオペラのムゼッタ役を歌われたことがあるそうですね？

A: レオンカヴァッロのムゼッタ役は、もともとイタリアで私にぴったりだと言われて勉強していました。ヨーロッパでオーディションを受ける時の私の勝負曲の一つだったのです。日本で一度、全曲が上演された時にもムゼッタ役を歌わせていただきました。そもそも『ラ・ボエーム』のオペラ化を最初に考えたのはレオンカヴァッロで、自分が台本を書くから作曲しないかとプッチーニに持ちかけたのに断られ、仕方がないから自分で作曲していたらプッチーニは別の人の台本でこのオペラを先に作ってしまったんです。確かに出来上がったオペラはプッチーニの方が優れているかも知れませんが、私はプッチーニと対立していたレオンカヴァッロをひいきしたいというか、このアリアは普通に歌ってもいい曲ですし、知られざる曲に新たな生命を吹き込むのに燃えてしまうタイプなので…(笑)。

Q: そういう意味では次の曲はプッチーニですが、これもどちらかと言うと " 知られざる " アリアかも知れませんね。『外套』でラ・フルーゴラが歌う「あんたがこの袋の中身を」。聴いてみたら、短いけれどリズムカルで印象に残る曲でした。

A: プッチーニでは数少ないメゾのアリアです。フルーゴラはイタリアのルツ

カヤピストイヤなどの劇場で歌った時に良い評価をもらった役でもありました。次が小林さんの『蝶々夫人』「ある晴れた日に」、そして「花の二重唱」なので、その前に歌います。同じプッチーニで流れもいいと思います。

Q：『蝶々夫人』スズキ役はもう何度も演じられています。ヨーロッパでも歌われたんですか？

A：イタリアにいた時はほとんど歌ったことがなかったです。フランスに移るか移らないかくらいの時に依頼が入り始めて。結構断っていたんですが、いったん引き受けてみたら日本人がやるスズキですから評判もいいですし、やってみたら人を支えるキャラクターが意外に性に合っていました。スズキは助演の俳優さんたちとのやりとりが多く、演技でさりげなく舞台の進行を助けることもあるのでスタッフ受けが良いんです。香港でもスタッフの人達に「We love you。また君と一緒に仕事がしたい！」って言われました。

Q：それは鳥木さんが魅力的だからというのも大きいのでは？

A：そんなことないです。それに気がきくのは舞台の上だけです。うちの夫は『蝶々夫人』を観に来ると、「弥生がかいがいしく働いているのを見ただけでもう泣ける」と言うくらいです(笑)。小林さんとは最近も『蝶々夫人』で共演していますし、何度も一緒にやっているの、今回せっかく彼女がゲストで来てくれることもあり入れさせていただきました。

Q：後半はフランスのアリアが中心となります。フランス・オペラはメゾ・ソプラノがヒロインの場合も多く、鳥木さんに合ったレパートリーだと思います。鳥木さんとフランス・オペラの出会いはどのようなものでしたか？

A：私にフランス・オペラの世界をしっかりと教えてくださったのはジャニーヌ・ライスさんというフランスのコレペティトゥールの第一人者だった方です。マリア・カラスやフォン・カラヤンなどとも仕事をしていた方で、約3年間指導してもらいました。作曲家に対する深いリスペクトがある厳しい方でしたが、教わって一番良かったと思うのは、楽譜の読み方です。曲に書いてある

ことを隅々まで学ぶこと、それからオペラにはドラマがありますが、全ての演技を心からやること。楽譜に書いてあることをやりながら、絶対自分の心からやる、その二つを両立させることです。理想は、楽譜は同じだけれど心から演ずることによって、口から出てくる音や言葉は毎回その瞬間に生まれてくるようになることです。

Q: それは素晴らしい教えですね。先生とはどのようにして出会ったのですか？

A: 藤原歌劇団『カルメン』公演でメルセデス役をいただき、マエストロ・チョン・ミョン・フンが日本の前にフランスのオランジュで『カルメン』を指揮なさるのをイタリアから観に行きました。ライス先生はオランジュ音楽祭の監修をなさっていたので、「ちょっと歌ってみなさい」とお声をかけて頂いたのがきっかけとなりました。先生ご自身はメゾ・ソプラノの声に憧れがあり、歌手になりたかったけれどもソプラノの高い声だったのでコレペティになったという方でした。

Q: 私は鳥木さんのお声の様々なニュアンスに富んでいるところ、そして歌が、作品全体をしっかりと反映しているところがとても好きなのですが、ライス先生との勉強のお話を伺ってその理由の一端がわかったような気がします。では後半のフランス・オペラの世界についてもお聞きします。まず『ホフマン物語』の二重唱から始まり『カルメン』へ続きますね？

A: 『ホフマン物語』の二重唱はコンサートなどでよく歌いますが、オペラ全体は舞台ではまだ歌ったことがありません。演奏会形式でニクラウス役を演じたことはありますが。そして『カルメン』前奏曲の後、「ハバネラ」を歌います。

Q: 鳥木さんはカルメンの人物像をどのように捉えていますか？もしくはこういうアプローチで歌いたい、という希望などはお持ちですか？

A: 私は『カルメン』を会話劇だと思っているんです。登場人物はそれぞれ違

う性格を持っていることが言葉に現れており、例えば彼女が発する「リベルテ(自由)」という言葉はとても彼女らしい。このオペラでは人と人との対話によって心が移ろっていくんですね。最終幕もホセが初めからカルメンを殺す気で登場する演出が多いけれども、彼も最初はまだカルメンとの将来を夢見ている、彼女が「私は自由だ」と拒絶するので殺す気になるわけですよ。

カルメンが登場する時に歌う「ハバネラ」は、その後彼女に起こることを全て予言しているような内容を持っています。もし私が舞台に出ていく瞬間のことを考えるとしたら、自分を主演と思わないことを心掛けます。カルメンはどこにでもいる人なんです。彼女にとって男との腫れた惚れたなどのいざこざは日常茶飯事。たまたま最後には殺されてしまっただけなんです。舞台となるセビーリャという町にとってもカルメンはただそこに居る人にすぎない。ビゼーの書いた管弦楽は素晴らしいですが、歴史上の大悲劇でもなければ、ワーグナーのような厚みのあるオーケストラに圧倒される、という感じでもないですよ。ですからカルメンの表現も大袈裟にしないほうがいいと思っています。

Q: 登場しただけで圧倒的な主演オーラを発していたエレナ・オブラスツォワさんの愛弟子である鳥木さんのご意見としてとても興味深いです。カルメンは登場の仕方にも注目ですね。続いては、トーマの『ミニヨン』より有名な「君よ知るや南の国」、そしてサン＝サーンスの『サムソンとデリラ』より「あなたの声に心は開く」とまさにメゾ・ソプラノの名曲が歌われます。ゲーテ原作のオペラ『ミニヨン』はこのアリアだけが広く知られていますね。

A: 『ミニヨン』も『サムソンとデリラ』もライス先生と全曲を勉強した作品です。『ミニヨン』は男の子の格好をしている女の子ミニヨンが主人公ですが、このアリアは歌曲のように有節形式といいますか、同じ旋律が繰り返される時、言葉の違いによってニュアンスが変わってくるという魅力的な構成を持つ曲です。『カルメン』や『サムソンとダリラ』は、ライス先生に勉強するように言われた時に私は、東洋のこんな大人しい女の子が、まあ大人しいかどうかかわからないですけど(笑)、カルメンやデリラなど歌えるはずがないと言って抵抗したんです。『ウェルテル』のシャルロッテ役なら喜んでやりますけれど、と。そうしたら先生が「馬鹿なことを言うてはいけない。自分の中にな

いものこそ、上手にできる可能性があるのだから」と言ってくださって。でも、丸め込まれただけかもしれません（笑）。

Q：自由を求めるカルメンも、妖艶なデリラもお似合いなように思いますが、それは鳥木さんの演技力ゆえかもしれませんね。こうしてフランス・オペラの中でも豊麗な『サムソンとデリラ』が歌われた後、最後に歌曲が三曲あります。

A：小林厚子さんが歌うオブラドルスの「一番細い髪で」が素晴らしい曲なので、前後の曲もそれに合うように選びました。最後はマスカーニの「アヴェ・マリア」の二重唱で美しく終わりたいと思います。

Q：この魅力的なプログラムでピアノを演奏するのは小埜寺美樹さんです。新国立劇場などでご活躍のオペラを熟知したピアニストですね。小埜寺さんはどのような方ですか？

A：小埜寺さんとはとにかくいつも元気で優しい方です。オペラ歌手の伴奏をしてくれるピアニストはみな優しい方ばかりなのですが、美樹さんは優しさに加えて本当にいつも元気。私も自分のリサイタルをするのは初めですし、いつも全体の進行などに気を遣って考えすぎてしまう性格なので、こういう元気な人がそばにいてくれたら私もわがままになれるかな、とってお願ひしました。今回は仲良しのあっちゃんと、いつも頼れる元気な美樹ちゃんに甘えて、わがままな感じでやれたらいいと思っています。



Q：仲の良い三人の雰囲気が伝わる舞台になりそうです。最後にご来場予定の方にメッセージをお願いします。



A: メゾ・ソプラノの曲をまとめて聴く機会はそれほど多くないと思うのですが、勇気を出してきていただければ一緒に素敵な時間を過ごせること請け合いです。ぜひ一步を踏み出してメゾ・ソプラノの世界に飛び込んでください！

Q: 充実した内容の楽しいリサイタルになることは間違いないですね。大成功をお祈りしております。

*Program*

ロッシーニ: 歌劇「アルジェのイタリア女」より、惜い宿命よ!  
 モーツァルト: 歌劇「フィガロの結婚」より、手紙の二重唱 ★☆  
 レオンカヴァッロ: 歌劇「ラ・ボエーム」より、これが運命!  
 プッチーニ: 歌劇「外套」より、あなたがこの袋の中身を  
 プッチーニ: 傑作夫人より、ある晴れた日に ☆  
 より、花の二重唱 ★☆☆

オッフェンバック: 歌劇「ホフマン物語」より、  
 美しい夜、愛の夜(ホフマンの舟歌) ★☆☆  
 ビゼー: 歌劇「カルメン」前奏曲  
 ビゼー: 歌劇「カルメン」より、ハバネラ  
 トーマス: 歌劇「ニコン」より、君と知るや南の国  
 サンサーンス: 歌劇「サムソンとダリラ」より、あなたの声には聞く  
 ガスタルドン: 禁じられた音楽  
 オブラトルス: 一番細い髪で ☆  
 マスカニー: アヴェ・マリア ★☆☆  
 ★☆☆二重唱 ☆小林(ソプラノ)

ロシアの名歌手  
 エレーナ・オブラストニコワに見いだされ  
 世界で活躍するメゾソプラノ!

特別ゲスト  
 小林厚子  
 (ソプラノ)  
 RITSUKO Kobayashi

小壁寺美樹 (ピアノ)

*Yuyuki Teriki*  
 鳥木弥生  
 メゾ・ソプラノリサイタル

2021.11/19 [金] 19:00開演 かなっくホール 横浜市神奈川区民文化センター  
 (18:15開場) (18:15開場) (18:15開場)  
(劇場座席・生活者座席・楽神座席・市民座席 楽神座席(目・特等座席)から1分、生活者座席 東白根駅から徒歩10分)

全席指定 S¥4,500 A¥3,000 [チケット取扱い]  
 オフィス風雅 (オフィス風雅メール登録会員先行あり)  
<https://www.officefuga.jp/> 03-5778-5288

お問い合せ: オフィス風雅 support@officefuga.jp  
 主催: オフィス風雅

一般発売 8/21

◎チケットぴあ <http://t.pia.jp> [Pコード: 200-998] 0570-02-9999  
 ◎イープラス <https://eplus.jp> ◎かなっくホール(窓口受付のみ)